一般社団法人日本キャップ野球協会

2025年度事業計画書

2025.5.24

環境認識

・2024年度は、大会参加者数および会員登録数（ 662名）が過去最高を記録し、対面での体験会開催や Instagramを活用した広報活動の成功により、キャップ野球の認知度向上に大きな成果が見られた。夏に開催された蓋ノ陣では、スポンサー様　2社と連携し、日本山村硝子株式会社様とはキャップ回収事業を、株式会社サンテレビジョン様とは YouTubeで複数画角生配信と、**大会やキャップ野球自体の価値向上**　が図れた。

一方で、新規競技者（以下「キャッパー」と称す）の離脱も目立ち、特に **“キャップ野球を始めたい ”という潜在層を受け入れる体制が不十分**　であったことが課題として浮き彫りとなった。この「新規参画者の受け皿不足」は、競技の未来を左右する極めて深刻な課題であり、理念「いつでも、どこでも、誰とでも楽しめる」を実現すべく、早急な改善が求められている。

2025年度は、過去築き上げた実績をより強固なものにしつつ、効果的で一元化された　SNS広報基盤の整備と並行して、新しいキャッパーの競技定着を図れる仕組みと環境の構築を急ぐ。

・キャップ野球の持続的な発展には、若年層、**特に中高生の新規参画が不可欠**　であり、参加障壁の低減が喫緊の課題である。これを踏まえ、 2025年度より中高生の入会費および年会費の無償化を試行し、誰もが気軽に競技へアクセスできる環境づくりを進める。併せて、　U18世代を対象とした大会開催を目指し、普及活動にも重点的に取り組む。

・日台間の交流も深化し、台湾選手団の日本大会参加、 JCBA使節団の台湾派遣などを通じて、台湾現地団体「 TCBA（Taiwan Cap Baseball Association）」の設立に向けた動きが本格化している。台湾初のリーグ戦も開幕し、同国における競技の規模は急速に拡大している。

・引き続きキャップ野球の競技価値向上に努め、各大会の質の向上と、棲み分けを図る。 2026年度の全日本選手権大会の開催を見据え、U18、大学、社会人選手権といった各レベルに応じた大会を段階的に実施していく。

・キャップ野球の社会的地位向上を目指し、SDGsの観点から「エコで持続可能なスポーツ」としての側面を強調した普及活動を展開する。また、 **関係企業との協業を通じたリブランディング**　にも取り組み、競技の新たな価値創出と認知拡大を図る。

基本方針（１）

「いつでも、どこでも、誰とでも楽しめる」 をコンセプトとしているキャップ野球。
SNSでは多くの視聴者を獲得しており、認知度は年追うごとに増えている。
潜在的なキャッパーが世に多くいる中で、**今後如何に競技参画を促すかが鍵となる** 。

→ **競技の永続的な発展には若い競技者の継続的な流入が不可欠。**
2024年度より始まった5ヵ年計画の2年目として、下記の重点施策を実施し、競技と協会の持続的発展に寄与する。

①**新規競技者層への普及**

・始めて一年以内のキャッパーの定着を目指すための棲み分けされた環境構築
・中高生の **入会金・年会費を無料** にする施策による参画障壁の低減
・中部地方を中心とした、地方の競技参画に向けた支援
・中高生や新規競技者層に向けた定期的な体験会の開催、競技機会の提供

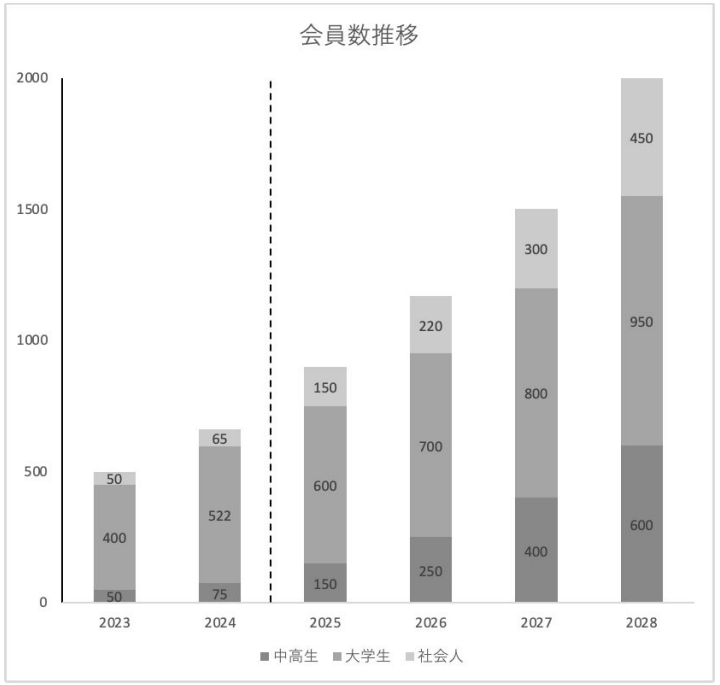
②**大会の付加価値向上**
・自治体との連携により、**大規模大会の土日開催の恒常化**
・大会の永続的な開催 に向けた営業活動
・キャッパー誰しもが目指す最高峰の場の創出・確立
・既存メディア、各種SNSを用いた競技認知
・パートナー企業の能動的な模索

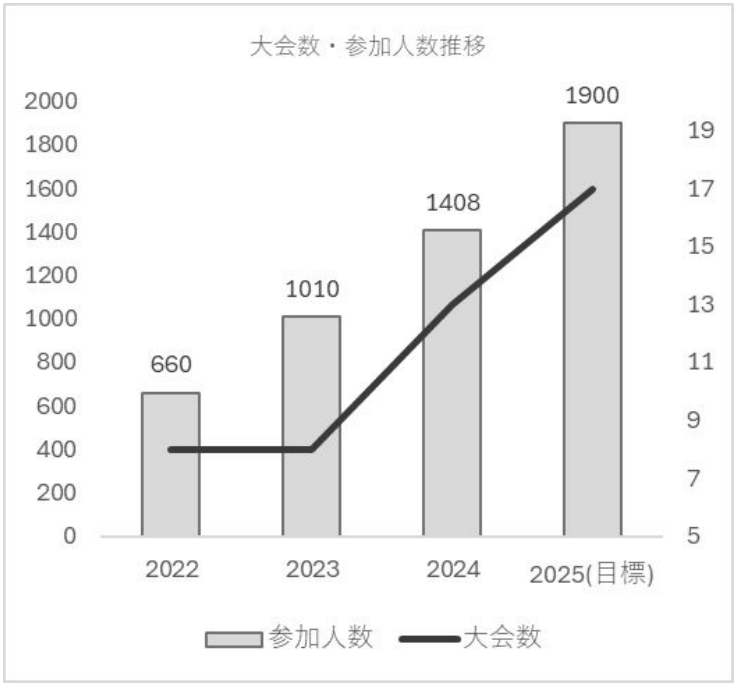
③競技の基盤たる協会の安定的・持続的発展のための内政改革
・チーム登録等諸制度の明確化・改革
・代表者会等を活用した新規施策による理事会の透明化の促進
・委員会同士の連携強化による縦割りの打破
・マニュアル化等による効率化
・正しいインセンティブ付けと制度改革による協力会員の確保

基本方針（２）

「いつでも、どこでも、誰とでも楽しめる」 をコンセプトとしているキャップ野球。
SNSでは多くの視聴者を獲得しており、認知度は年追うごとに増えている。
潜在的なキャッパーが世に多くいる中で、**今後如何に競技参画を促すかが鍵となる** 。

→ **競技の永続的な発展には若い競技者の継続的な流入が不可欠。**
2024年度より始まった5ヵ年計画の2年目として、2028年度に会員数を2000人まで増やすことを目標





2024年度の会員数目標は101.8%達成。
一方で、“競技に参加したい”という潜在層を
受け入れる体制が不十分であったことが浮き彫りに。

2025年度は、キャップ野球を始めて一年以内の
新規層に向けたキャップ野球の試合機会を増やし、
定着に向けや環境構築を協会主導で実施。

2028年度の会員数2000人に向けて、受け皿強化へ

主要事業計画（１）

委員会	事業	目的	概要	担当
広報	SNS 普及	競技認知度促進	広報活動は単なる情報発信ではなく、キャップ野球の未来を形作る重要な要素である。JCBA/キャップ野球TV/情報局が一体となって広報のさまざまな手法を駆使して、キャップ野球の認知拡大と競技人口増加、支援者増加を目指す。 2025年度中に広報一体化の地盤作りを行い安定稼働の体制を整え、短期的にはキャップ野球に関心を持つライトファン層をミドルファン層へと育成することを目的に、安定的かつ計画的なコンテンツ提供を通じてファンとの継続的な接点の構築に注力する。最終的にコアファンを育成することで競技の発展につなげる。	五島
企画 広報 リーグ	対人 普及	新規参画者	新規競技者の参画ハードルが高さが昨年度における大きな課題ととらえ、 新規参入者へ試合をはじめとした通気的な競技機会の提供を促進する。 新規競技者を能動的に増やすための体験会も各地で実施する。	黒田・國分・宮城・ 中尾
企画 総務	協会 事務	中高生の人口増加	中高生の競技人口増加の為、会費免除等の様々な参画障壁の低減施策の展開。 中高生の競技参画を促すための機会創出も図り、今後の競技の発展に向けた土台を構築する。 中高生向けの大会や体験会・SNS運用方針と併せて、視聴者やライトな競技者層を会員としての競技者層へつなげる。	奥村・花田・國分
企画	大会 運営	選手満足度向上 大会開催の安定化 大会付加価値創出	次の段階の大会開催に向けて、自治体、企業や報道機関と連携し大会のさらなる価値向上に尽力。 競技者増に対応すべく、それぞれの競技ステージにいるキャッパーに対応した、棲み分けされた大会機会の創出。 大会開催の安定化に向けて、委員会を超えて連携し、自治体も含めて会場確保のための営業活動を行う。	須藤・安倍
競技 規則	競技 規則	競技の安定化	キャップ野球の手軽さを残しつつ、全体の競技レベル向上を目指す。 適宜ルールの調整・改正を行い、選手の安全性や公平性、競技バランスを保つ。 審判員制度の進展と、競技全体にスポーツマンシップが確保され続ける環境の整備。 投本間距離の実験検証を重ね、現状の競技レベルに沿った改定を目指す。	若林
企画 リーグ	選手 育成	競技レベルの促進	チーム事情により試合機会の減少する選手の増加といった懸念に鑑み、全競技者に門戸を開いている大会は残しつつ、新規参入者層と上級者層への試合機会の創出を図り、競技者一人一人に合わせたレベルアップの場を提供できる環境を整備する。 例）全日本大学選手権大会・全日本U-18選手権大会・通期的な新人向け試合の場等	須藤・安部・河内 中尾・宮城
企画 リーグ	中部地 盤固め	競技者基盤の確保	中部地方の競技者を増やすための地盤整備。 2025秋の中部リーグ開催を目指した準備及び、名古屋エリアでの大会開催	宮城

主要事業計画（２）

委員会	事業	目的	概要	担当
総務	協会事務	協会の安定化	協会・チーム・競技者・企業を繋ぎ、連携強化を図る。 各チームより協力会員の参画必須を導入し、協会運営のマニュアル化を進め、スムーズな引継ぎ・新旧世代交代を実現しつつ、永続的にキャップ野球を発展させる環境を構築実施。 AIやツールを活用したバックオフィス業務の最大効率化を模索。	花田・國分
広報	情報集約	競技データの管理	キャップ野球情報局・CAP-SCOREBOOKと連携し、キャップ野球の記録、情報を集約。 中期的に、キャップ野球の動画共有プラットフォームの構築。 長期的に、キャップ野球専用アプリの開発を目指す。	須藤・安部・河内 中尾・宮城・五島
マーケティング	法人営業	協賛獲得	新たに大会や協会イベントにおける協賛を獲得すべく、法人への新規営業活動を実施する。 同時にキャップ野球の社会的価値の向上を目指す。	佐藤・九町
マーケティング	出展 イベント	ブランディング	キャップ回収からSDGsの達成に貢献、「エコなスポーツ」としての認知度向上を目指す。 企業や自治体と協働しつつ、出張授業やイベント出展等も通して、現状のリサイクル事業の拡大、同時に情報の正しい発信を行う。	九町・奥村・佐藤
マーケティング	専用バット開発	競技の確立	専用バットを開発し、キャップ野球の競技としての確立、競技バランスの調整を図る。 数年を目途にバット製作に向けた費用概算及び製作会社の協賛を模索しつつ、最終的に割れたキャップを材料とした専用バットを実現、キャップを最後まで使うサステナブルな競技を目指す。	黒田
リーグ	リーグ運営	リーグ運営	どのレベルの選手も実力を日々高められる場として、試合提供を続ける。 リーグ戦の安定開催に向けた会場確保のための地域連携や営業活動の実施。	宮城・中尾
理事会	国際的な取り組み	国際的認知度向上	台湾でキャップ野球の普及活動・組織(TCBA)設立をサポート。 SNSや他メディア、海外イベント等でのキャップ野球の認知拡大。	佐藤・黒田
理事会	ガバナンス	協会の安定化	協会内組織体制の刷新、委員会の再編成、協力会員に対するインセンティブや評価・教育制度の整備など、今後キャップ野球の発展に寄与したいものへの活躍の場を後押しする協会体制を構築する。 事業スピードを落とすことなく、さらなる協会事業の透明化を図る。	佐藤・花田・黒田・國分・安部
理事会	メディア	社会的価値向上	既存メディアへの露出を増やすべく、案件一つ一つを真摯対応しながら、数少ないチャンスを絶対に逃さず、キャップ野球の社会的価値向上に繋げる。また24年度に構築した関係を活かした新規事業の取組みにも注力する。	佐藤・横田・黒田・九町・河内

組織体制

•2024年度、5委員会11部門　→　2025年度6委員会体制へ

└競技規則・広報を再度委員会として組成。広報委員会はキャップ野球TVと企画委員会広報部門、デジタル委員会を統合し、新規組織としてキャップ野球の普及促進、地位向上に加え競技人口の増加を促進。

•代表理事3名・理事11名・協力会員91名※で今までにない規模へ

└ 事業拡大に伴い、定款の変更によって理事の人員を増加。既存事業の確立と新規事業の拡大を目指す。

└ 新理事5名の参画（2名の退任）。

└ 昨年比約2倍となった協力会員によって、よりよい運営体制の構築へ。

└研修・教育制度の基盤確立によって組織の持続的運営確立。

※2025年3月時点

•会議の定常化と綿密な連携

└ 月2～3回の定例会の開催を予定、関東における対面開催の定常化と、関西においても対面開催を目指す。

└ 月1回開催される企画委員会の定例会の継続。